

レジメン名 ICE

出典 J Clin Oncol, 17:3776-3785,1999
Blood.2004;103:3684-3688

実施部署区分

入院 外来 処置

対象疾患 リンパ系腫瘍

進行・再発
補助療法(術前・術後)
初発

投与減量の基準

Ccr	10-50mL/min:IFM・VP-16を25%減量
	10-50mL/min未満:IFM・VP-16を50%減量
T-Bil	1.5-3.0mg/dL:VP-16を50%減量
AST・ALT	60-180IU/L:VP-16を50%減量
その他	肝・腎機能障害以外に用量変更はしない

1クール期間 14-21日* 総クール数 3クール

(次のクールまでの標準期間)
※MSKCCでは14日毎、GORAL試験では21日毎

投与中止の基準

ANC	1,000/mm ³ 未満	PLT	5万/mm ³ 未満
LVEF	50%以下		
Cr	1.5mg/dLを超える	Ccr	60mL/min未満
その他			

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1, d8等)
イホスファミド(イホマイド)	5000mg/m ²	NS500mL	24時間	d2
メスナ(ウロミテキサン)	1000mg/m ²	輸液100mL	1時間	d2(イホスファミド直前)
メスナ(ウロミテキサン)	3000mg/m ²	イホスファミドに同時混注	24時間	d2(イホスファミドに同時混注)
メスナ(ウロミテキサン)	2000mg/m ²	輸液500mL	12時間以上	d3(イホスファミド終了直後から)
カルボプラチン	AUC5 × (GFR+25) 上限800mg	5%糖液250mL	1時間	d2
エトボシド	100mg/m ²	輸液500mL	1-2時間	d1-3
【注意事項】 ・G-CSFを適宜実施 文献(J Clin Oncol, 17:3776-3785,1999, Blood.2004;103:3684-3688)では、最初の2クールではday5-12に、3クール目ではアフエレーシスが終了するまで実施された。				

1日投与順 (経時的にフレメタキオン・ポストメタキオン、 溶解液まで含む)
day1 ①デキササート6.6mg+生食50mL(15-30min) ②エトボシド100mg/m ² +輸液500mL(1-2hr) DEHPフリーの点滴セットを用いて投与 ③生食50mL(フラッシュ用)
day2 ①アロキシ0.75mg/kg+デキササート9.9mg(15-30min) ②エトボシド100mg/m ² +輸液500mL(1-2hr) DEHPフリーの点滴セットを用いて投与 ③カルボプラチンAUC5+5%糖液250mL(1hr) ④生食50mL(フラッシュ用) ①ウロミテキサン1000mg/m ² +生食100mL(1hr) ②イホマイド5000mg/m ² +ウロミテキサン3000mg/m ² +生食500mL(24hr)
※イホマイド投与中、必要に応じて輸液500mL+メイロン7%20mLで尿のアルカリ化を図る。 ※イホマイド投与1時間前から投与終了の翌日まで1日尿量3L以上を確保。
day3 ①デキササート6.6mg+生食50mL(15-30min) ②エトボシド100mg/m ² +輸液500mL(1-2hr) DEHPフリーの点滴セットを用いて投与 ③生食50mL(フラッシュ用) ①ウロミテキサン2000mg/m ² +生食500mL(イホマイド終了直後から12hr以上)
内服 day2-4 アプレビタントカプセル
【注意事項】 ・G-CSFを適宜実施